

事業計画書

1. 事業名称 「昔のあそびとわらべうたⅡ事業」

2. 実施主体

- 団体名： 「昔のあそびと遊ぼう会」
- 事業担当課： 「松戸市六実支所」

3. 取り組もうとする課題

核家庭化の影響からか親から子、子から孫へ遊びを教えられる人が少なくなってきました。また老人・青年・子供の世代にまたがりコミュニケーション手段がなく一緒に楽しめることが 無くなってきました。

伝承文化である、「昔の遊び・わらべうた・わらべうたあそび」をコミュニケーションツールとして、広めることにより、親と子、孫との共通の話題作りを提供できるようになり、地域の世代間交流ができるようになります。

さらに地域住民全体に輪を広げていくことにより地域の活性化に寄与できるものと確信します。

4. 事業内容及びスケジュール

H23 年度は、個別に事業を行ったが子供達も時間が取れなく、集客が難しかったので、H24 年度は、地域イベントとコラボして地域イベント全体を盛り上げる活動を多く行う。又昔遊びの講習会に来れない障害者・高齢者の人達とのコミュニケーションを図るため、出張し開催する。講習会では、相互理解を深めるため、名札を付けてもらい、対戦ゲーム形式もとり入れる。

日程	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
H24. 4	① 六実桜まつりに参加	指導員、地域祭り参加者、さくら通り
H24. 5	② けん玉・カプラ講習会	指導員、講師、地域住民、障害者施設
H24. 7	③ こま・まりつき・お手玉講習会	指導員、講師、地域住民、市民センター
H24. 8	④ けん玉・カプラ・めんこ講習会	指導員、講師、地域住民、市民センター
H24. 8	⑤ 盆踊り・昔あそび大会	指導員、地域住民、六実スポーツ広場
H24. 10	⑥ 「六実っ子まつり」参加	指導員、講師、地域住民、市民センター
H24. 12	⑦ こま・羽根つき・めんこ講習会	指導員、講師、地域住民、市民センター
H25. 1	⑧ 昔のあそび・正月遊び大会	指導員、地域住民、神社境内
H25. 3	⑨ 「キャラバン見本市」参加	指導員、地域住民、市民センター
H25. 3	⑩ 年度の反省次年度計画見直し	指導員代表、支所、協働推進課
H24. 4~毎月	⑪ 定例会	誰でも参加自由、会員、市民センター

5. 事業に期待する成果

- ・講習会参加した人員 各講習会の参加 50 名以上
- ・六実桜まつり、六実っ子祭りでの参加 各々100名以上
- ・他団体とより緊密に連携化することにより、地域イベントがより活性化できる。

6. 協働の意義

- ・当会だけでは、情報入手に限界があり、支所の協力が必要である。
- ・支所との協働事業として行うことで、事業に対する信頼度が格段に向上する。
- ・他地区の情報が得やすくなる。
- ・会員には、民生委員、防犯指導員、高齢者支援相談員等の活動をしている人がおり、当会との協働事業をすることにより今迄知り得無かった草の根の情報（例えば、町内の危険場所や災害時の確認必要な人情報等）が入手出来行政に役立つことになる。
- ・支所として支援している、地域イベント（六実っ子まつり、六実桜まつり、盆踊り等）の更なる活性化が図れる。

7. 事業実施の役割分担

■ 提案者の役割

- ・「昔あそび、わらべうた、わらべうたあそび」の技術の提供。
- ・同上の指導要員の提供。
- ・同上のイベント実施する際の企画・運営。

■ 担当課の役割

- ・支所で管理している公益の場所の提供・調整。
- ・広報等の掲載。
- ・支所管内のイベント情報の提供。

8. 将来の展開

住民同士が知合い、子供達も顔見知り、互いに挨拶を交わせる街になり、子供たちから町で、「おはようございます」、「お手玉の先生だ」、「けんだま名人だ」、「わらべうたの先生だ」、「コマ回し名人だ」とあいさつする町にしていきたい、また大人同士が顔見知りになり、歳をとっても自宅内に引籠らずにみんなが集ってあそべるものを作りあげたいと思っています。

そのためには、指導員の増員や世代交代、PRも欠かせないと思っておりますが、先ず六実支所管内で遊びの活動を重ね、成果を確認しながら子供達を育て、指導員の育成を図り「わらべうた・わらべうたあそび」等古きよきものの伝承を図って行くことにより、いきいき安心して生活できる地域社会をつくりあげる。又「昔あそび」で地域のコミュニケーションを図っている町と呼ばれるようにしたい。=>「昔あそびの町」と呼ばれたい。

事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

	（自己資金）	金額	積算内訳
		提案者	72,000 円
	会費	20,000 円	
	寄付金	30,000 円	コマ代(100 人×200 円)
	参加費		メンコ代(100 人×100 円)
	自己資金合計 (a)	122,000 円	✓
	労力換算額計 (b)	525,000 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額 (c)	213,000 円	✓
	資金合計額 (d) (a+c)	335,000 円	事業費 (g) と同額

【事業費の積算（支出）】

	項目	金額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費（講師代）	75,000 円	5 回×15,000 円（注 1）
	印刷費製本代	100,000 円	2,000 部(注 2)×50 円
	材料費	120,000 円	(注 3)
	保険料（行事保険）	20,000 円	400 人（注 4）×50 円
	対象となる経費合計額 (e)	315,000 円	✓
その他経費	指導員飲食費	10,000 円	
	指導員交通費	10,000 円	
	その他経費合計額 (f)	20,000 円	✓
	事業費 (g) (e+f)	335,000 円	✓ 収入合計額 (d) と同額

(注 1) 報償費 5 回内訳 けん玉講師代 (3 回(②,④,⑥)×15,000=45,000)、こま講師代(2 回(③,⑦)×15,000=30,000 円)

(注 2) 印刷部数 2,000 部内訳 ①・⑤各 200 部、②・③各 50 部、④・⑦・⑧各 500 部

(注 3) 材料費内訳 竹返し(30 個×500 円=15,000 円)、お手玉(200 個×50 円=10,000 円)、かるた(2×5,000 円=10,000 円)、めんこ(200 枚×100 円=20,000 円) 輪投げ(5 個×2,000 円=10,000 円)、羽根(10 個×500 円=5,000 円)、あやとり紐(50 セット×200 円=10,000 円)、カプラ (2 個×10,000 円=20,000 円)、こま(100 個×200 円=20,000 円)

{遊びの材料については、事業終了後は、団体が継続し、事業を行い材料は団体が管理し、地域イベントや公共のイベント等で使用していく。会が解散時には、市と調整し返却する。}

(注 4) 保険料内訳 400 人 (②,③,④,⑤各 50 人=小計 200 人、⑦及び⑧各 100 人=小計 200 人) *50 円/人=20,000 円

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	① 地域イベント桜まつり指導員工数	105,000円	15人×7H×2回×500円
	② けん玉・カプラ講習会指導員工数	22,500円	15人×3H×500円
	③ コマ・まりつき・お手玉講習会指導員工数	22,500円	15人×3H×500円
	④ けん玉・カプラ・めんこ講習会指導員工数	22,500円	15人×3H×500円
	⑤ 盆踊り・昔あそび大会	37,500円	15人×5H×500円
	⑥ 地域イベント六実ッ子まつり指導員工数	52,500円	15人×7H×500円
	⑦ こま・はねつき・めんこ講習会指導員工数	22,500円	15人×3H×500円
	⑧ 昔のあそび・わらべうた大会指導員工数	37,500円	15人×5H×500円
	⑨ キャバ〆見本市指導員工数	52,500円	15人×7H×500円
	⑩ イベント企画・チラシ現行作成工数①～⑨+追加催事チラシポスター作成工数	60,000円	3人×4H×10回×500円
	⑪ 定例会指導員工数	90,000円	10人×3H×6回×500円
合計 (b)	525,000円	✓	